

2021年度事業計画(案)

- 1、運営方針…1
- 2、事業概要…4
 - A ボランティアセンター4
 - B フードバンク…5
 - C とちぎコミュニティ基金…8
 - D 災害救援・復興支援…9
 - E NPO活動推進センター…10
 - F 県北Vネット…11
- 3、その他の事業…12
- 4、財政・組織運営…12

1. 運営方針

(1)とちぎVネットをとりまく社会情勢

①コロナ禍による生活困窮者の増大

コロナ禍の影響で生活困窮者が増えている。特に日雇い・パート・外国人・女性・学生などの非正規労働者が深刻である。政府の社会保障等の施策、企業による労働者への保障、民間の助け合いの3つのセーフティネットが必要とされる。また、FBの食品提供だけでなく、相談支援の機能によるエンパワメントと利用者の統計的なモニタリングによるアドボカシーが必要である。

②外国人（外国ルーツの人）の支援

外国人研修制度など外国人受入の制度的不備（欠陥）により、外国人や外国ルーツの人の労働、生活、医療・福祉、教育などに様々な課題が生じている。すでに移民社会であるにも関わらず、**制度の不備を現場に押しつけている**といえよう。今後10年を見ると定着した人たち（移民）への対応が必要であり、特に「外国ルーツの子どもたち」への支援が必要である。

いっぽうで民間の外国人支援の社会資源はほとんどない。フードバンクや子どもSUNSUNプロジェクト、自主夜間中学等での民間のセーフティネットを早急に強化する必要がある。

③休眠預金とファンドレイジングを両輪に。「支援する人が沢山いる社会」を創る

休眠預金の助成が2019年度から始まった。資金規模が巨額（年間700億円）であり、民間助成財団の合計額（630億円）より多く、非営利業界の寄付・助成金に大きな変化をもたらすだろう。様々な懸念もあるが、本会も今期「資金分配団体」になり2900万円を分配し伴走支援をすることになった。休眠預金の活用は是非非で対応しつつ、同時に、とちコミ自体のファンドレイジング能力を高め、「支援する人がたくさんいる社会」をつくるのが本質的に重要である。

④SDGsで、地域の課題を解決していく時代

テレビ広告でも「SDGs」を見かけるようになった。今後は、助成金や休眠預金もSDGsを意識して運営されるだろう。SDGs（持続可能な社会のための17のゴール）は、貧困、教育、福祉、環境、人権、

労働、経済的利益、パートナーシップなど17分野のゴールを、複数の指標を盛り込みながら、皆で同時に解決していくものである。これらを一定の地域・エリアで解決していかないと、地球・地域社会の持続可能性は2030年を境に悪化の一途をたどるといふ。

本会・とちぎコミュニティ基金が行ってきた**コレクティブインパクト（集積的效果）**はこうした「掛け算」の能力であり、この手法の普及が必要である。

(2)とちぎVネット内部で当面する課題

①コロナ禍での「対面活動」の制限、事業形態の変更を迫られた。

コロナ禍で「対面活動」が少なくなった。これまでオンライン会議、寄付イベントの内容の変更などをしてきたが、今期はワクチンの普及により徐々に平静を取り戻すだろう。しかし県北事務所の**子ども食堂などはボランティア、利用者、地域住民などが集まれず**、まだまだ苦境が続いている。

②プラットフォーム化で「グループ法人」の会員を増やす。

FBうつのみやを「部門の会員」と考えると、**本会+FBうつのみやで会員総数590人**となった。本会のプラットフォーム化とFBの自立/連携は一定の成果があったと言える。だが、FBの安定的な運営にはまだまだ会員の拡大が必要である。**応援者=寄付者の大半は会員**であり、Vネット、FB、県北での会員拡大が必須の活動である。

③研修と、さらなる人材採用

前期まで「職員の若返り」が課題であった。今期は採用した若手職員に対する研修が必要である。また、Vレンジャーやラジオ学生、FBボランティア、休眠預金事務局など若い人たちの中から「場・人」に慣れた人を増やし、そのなかから本会などのNPOの連合体に就職していく人を増やす必要がある。本会のみの人材育成では限界がある。

④ボランティアと協働する組織

総合相談支援センターの業務は、相談支援員（ボランティア）が増え、困窮者への対応能力が徐々に拡大している。しかし一方で、ボランティアがチームとして活動するには会議の開催、意思決定、執行、振り返りなどの場面でより高度なマネジメントが必要になっている。困窮者に寄り添い、同行支援するなどの「相談支援ボランティア」の養成も急務である。

FBの拠点が増えたことから職員が一部関与しつつ、原則としてボランティアがFB倉庫業務、食品確保、相談支援ができる協働の体制構築が必要である。さらに、FB県北、FB日光、FB那須烏山、FBもおかなど本会が関係するFBへの支援（人・モノ・ノウハウ）が必要である。

(3)2021年度の基本方針

①「SDGs+休眠預金=とちぎコミュニティ基金」を打ち出す。

今期から本会の情報誌を「とちコミ・SDGs通信」と名称変更した。これは「とちぎボランティアネットワーク」よりも「とちぎコミュニティ基金（とちコミ）」を全面に打ち出し、休眠預金とともに広報・宣伝を行うためである。SDGsは今後10年の産業界のトレンドであり、単独企業の営みをSDGsというテーマでNPO業界とのマッチング、巻き込みを図る。

また、みんな崖っぷちラジオの スポンサー広報も「とちコミ」を前面に出し、休眠預金の資金分配団体の広報の機会や、各種ファンドレイジングでも「とちコミ」を表出し、ファンドレイジング+休眠預金の両輪

でとちコミのブランディングを図る。

②新規事業：休眠預金事業、ユニバーサル就労ネットワーク、福島ラジオを実施

今期は変化の年である。非常勤職員 7 人を新たに迎えて 3 つの新規事業を行う。①非常勤スタッフ 4 人とともに休眠預金事業を行う。②9 月をめどにユニバーサル就労支援ネットワーク（仮）を企業からの出向スタッフを迎えて開始する予定である。③「次世代に伝える原発避難 10 年目ラジオ」を毎月 1 回放送する。非常勤スタッフ 1 人とラジオ学生 1 人を採用し実施する。職員が増えた余力で、相談支援体制、SDGs 通信の取材等の充実を図る。

③子ども SUNSUN プロジェクト（サンサンPJ）による「外国ルーツの子どもの貧困調査」と資金支援

サンサンPJとして、外国ルーツの子どもの困窮の現状を調査する。また、那須塩原市でのサンサンPJ（調査）への伴走支援を行う。さらに「自主夜間中学」など外国ルーツの人への支援として重要な取り組みは、とちコミで新たにファンドレイジングを開始し、助成する。「推薦方式」のサンサンPJ助成金を創設し子ども食堂、学習支援の数を増やし、良いプログラムを支援する。

④FBの全県ネットワーク化と、県北支部の困窮者相談支援体制の強化

全県のFBのハブ機能として本会+FBうつのみやが中心になり、連携と総合相談支援を普及する。FB県北でも定期配布会での困窮者ケース・マネジメントをスタッフに共有することで、相談支援のノウハウ移転と人材育成をおこなう。FB、子ども食堂、学習支援のケース共有による連動をはかる。

本会の独立型社会福祉士事務所での社会福祉士実習の受入が10月からできることになる。宇都宮、県北の両事務所で、国際医療福祉大や共和大など福祉士資格を目指す学生を積極的に受け入れ、将来の人材獲得を目指す。「独立型社会福祉士事務所+フードバンク」のセットを生活困窮者支援のビジネスモデルとして県内に普及する。

⑤「若者・学生ボランティアチーム」の育成と研修

前期は、Vレンジャー、泉が丘お助け隊、ラジオ学生、FB学生ボランティアなど学生・若者のボランティア（チーム）が増えた。急きよ、若者会議(1月)や、来年どうするか会議(11月)で交流・意見出しをおこなったが、活動実現のための実施サポート、基礎的な研修などが不十分であった。今期は**個人の育ち、グループの成長**を意識し、**社会の現状**を伝えるグループワークや研修会を意図的に行っていく。

コロナ禍の学生生活はリモート授業で学生同士の交流も少なく、ましてや市民活動・NPO関係に関心を持つ機会はほとんどない。休眠預金の若手スタッフや、たかはら子ども未来基金の「インターン学生」なども含めて、NPO・市民活動に関心を持つ機会をつくり、人材育成・確保の下地づくりを行う。

⑥事業企画会議、予算会議、若者会議、サンクスVクラブ、ボランティア交流会の定期化

これまで組織運営のための会議は、事業運営に比べておろそかにされがちだった。総会の他に事業創出会議（来年どうするか会議：11月）、予算会議（ボランティアの出番ですよ会議：2月）を担当職員+ボランティアとともに行い、ボランティアの育成とボランティアによる統治を社内文化として定着させる。また、夏・冬のボランティア交流会も本会・FBうつのみやの重要な仲間づくり活動と位置付け、職員の担当制として「仲間づくりによる活動活性化」を図る。同様にサンクスVクラブも会員や昔の活動家、ゲスト（他団体）との交流を行い、新規巻き込みととちコミやFB等による寄付獲得の機会と位置付ける。若者会議（1月頃）は全体の中で埋没しがちな若者に焦点をあてて、若者自身の育ち（研修）・交流・新人獲得を目的にした集会を実施する。

重点事業

(組織)

- ・重要会議の定例化・内容の充実（事業企画会議、予算会議、若者会議、サンクスVクラブ、ボラ交流会）
- ・事務局スタッフの補充
- ・「困窮者ケース検討・共有」による県北Vネットの総合相談支援の体制構築
- ・とちぎコミュニティ基金の「ブランド化」を図る

(人事)

- ・「人事・業務評価システム」稼働による職員の能力向上
- ・困窮者の相談支援ボランティアの育成と、他のFB拠点への相談支援ノウハウの普及
- ・社会福祉士実習生の受入体制の構築

(事業)

- ・★新規「休眠預金事業」の実施
- ・★新規「ユニバーサル就労支援ネットワーク」の立ち上げ
- ・★新規 子どもSUNSUNプロジェクトによる「外国ルーツの子ども」調査
- ・★新規 みんな崖っぷちラジオ特番「次世代に伝える。原発避難10年目ラジオ」月1回実施
- ・チャリティウォーク県北・県央を、とちコミの「FB団体合同ファンドレイジング・イベント」とする。
- ・旧・月刊ボランティア情報の紙面、タイトルの刷新。『とちコミSDGs通信』を発刊

2. 事業概要

A. 【ボランティアセンター】

(1)総合相談支援事業（Vの相談・助言事業）

①総合相談支援センターの運営

■内容／専従職員により関係機関、NPO、ボランティアの需給調整を行うことで個人からのSOSへの対応を行い、社会課題の解決を図る。特に個人からのSOSの解決について、独立型社会福祉事務所による総合相談支援センターの機能により、あらゆる生活上の困難についてワンストップで相談支援を行う。

また、「相談支援ボランティア」の育成を行う。社会福祉協議会などから社会福祉士養成校（大学・専門学校）等の実習生を受け入れ、既存の社会福祉分野では解決していない社会問題への啓発を行う。

■活動日／毎日

■従事者／職員2人、ボランティア複数名

②コールセンター栃木の運営支援

■内容／社会的包摂支援サポートセンターによる「寄り添いホットライン」に協力するためコールセンター栃木の運営支援を行う。電話相談員の確保、ワンストップ支援を行うための同行支援のコーディネートを側面支援する。今期からチャット(文字)による相談支援が稼働する。電話に抵抗のある若者が増え、電話相談の前段としてチャットによる相談の受け口をつくるものである。

■電話相談は週2日、10-22時、夜勤は月3回、22-翌日10時、同行支援は随時

■活動日／随時 ■従事者／職員1人（電話相談は相談員16人）。

③「福島県復興支援員事業」、「福島県外避難者への相談・交流・説明会事業」

■内容／とちぎ暮らし応援会の後継事業として、福島県から2つの事業を受託し、避難者宅への訪問相談支援と本会事務所で相談所を開設する。今期は「次世代に伝える原発避難10年目ラジオ」を毎月1回・第2日曜11-12時にミヤラジで放送する。「とちぎ災害・移住者定着支援センター」を開設し、原発避難だけでなく避難者の定住化の支援を行うことを構想する。

■活動日／火～金、10-18時、ラジオは月1回・日曜日 ■従事者／職員4人、ラジオ学生1人

(2) Vレンジャー（Vの啓発・普及事業）

■内容／学生・若者ボランティアチームとして困窮世帯の子どもに対しキャンプや野外活動を年4回実施する。「キャンプで救う！子どもの貧困」が合言葉。学生の参加促進のためのチーム運営ボランティアの育成や、長期的に関わる社会人ボランティアの増加を図る。

■活動日／会議月2～3回、企画年4回 ■従業者／職員1人、ボランティア複数名

(3) 講師派遣事業（Vの啓発・普及事業）

■内容／とちぎVネットに登録した講師または事務局員を派遣する。登録講師の場合は講演料を寄付とする。

■活動日／随時 ■従事者／職員複数人

B. 【フードバンク】

(1) フードバンク事業（生活困窮者の支援）

フードバンク（FB）への期待度が高まっている。スタッフもそろいつつあるが、相談支援、事務局、ファンドレイジング、広報の組織基盤は不十分である。コロナ後の拡大する需要に対して人、モノ、金を充足するためにもより多くの人を巻き込み体系的に運営する必要がある。

FB日光、FB県北、FB那須烏山は本会の組織として活動を行う。NPO法人フードバンクうつのみやは本会のプラットフォームとして共同でFBを運営する。今期は、県内各地のFBとともに「総合相談を取り入れたフードバンク活動」を底上げしていく。

行政も困窮問題やゴミ減量への取り組みとしてFBとの連携・協働し、宇都宮市（ごみ減量課）、栃木県庁（保健福祉課）もフードドライブで協力している。

今期は特に「相談窓口の強化」に取り組む。子どもSUNSUNプロジェクトとの連動や、貧困、飢餓、生産、消費などの項目の切り口でSDGsを視野に入れて活動する。

① 宇都宮市内の拠点（埴田、泉が丘支所）の運営（FB うつのみや）

■内容／宇都宮市内の2か所（埴田、泉が丘）でFBの運営をする。拠点に人員を配置して生活困窮者やボランティアがアクセスしやすい環境づくりを行う。

■活動日／設置後毎日 ■従業者／職員1人、ボランティア複数人

③「きずなセット配布会」の実施（V、FB うつのみや）

■内容／FB拠点での相談支援による食品提供に加えて、食品 6kg の詰め合わせ（きずなセット）を 50～200 個を配布する「きずなセット配布会」を行う。「手渡し」と「宅配便の配送」を行う。

配布会の利点は、FB外の組織が集まって合同で行え、県内全域で配布会を実施できる。今期は配布会＋生活相談も各会場で実施できるようにする。

■活動日／年 6～8 回程度 ■従業者／職員 1 人、ボランティア 10 人程度

④フードドライブ(FD)と「きずなBOX」設置の拡大

■内容／FDは倉庫で通年実施しているが、とちぎコープの店舗、宇都宮市環境部ゴミ減量課、栃木県保健福祉課、イベント会場の依頼により出張 FD を実施する。

多数の人が出入りする店舗や公共施設を選び「きずなボックス」（食品収集箱）の設置場所を増やす。

■活動日／毎日 ■従事者／職員 1 人、ボランティア複数人

⑤FB食品の利用／奨学米プロジェクト（FB うつのみや）

■内容／「学齢期にある低所得母子家庭等への奨学米支援」プロジェクト（奨学米プロジェクト）を実施する。学齢期の子供がいる母子家庭等の家計を支援する目的で毎月米を寄贈する事業で、年間 3～7 万円分の生活費の応援をする。この事業はこども SUNSUN プロジェクトのFB部門の核心事業であり、困窮家庭への発見、アクセス、米の収集などを含めて一番力を入れる事情とする。

■活動日／毎日 ■従事者／職員 2 人、ボランティア

⑥県内のネットワークの活性化

■内容／FB 県北以外は県内のFBの拠点とはほとんど接点がない。今期はFB拠点同士で連携を促進する。ネット環境を利用したリモートミーティングを県域で行、情報交換や連携を模索する。

■活動日／年 6 回 ■従事者／職員 2 人、ボランティア、各拠点など

⑦広報

■内容／FB と困窮者支援の周知のために「フードバンク通信」を年 6 回発行する。また、宇都宮市役所・ごみ減量課等を通じてSDGs の視点での広報を企業に向けに行う。さらに民生委員児童委員地域協議会を通じて、きずなボックスや困窮者への情報源としてFB協力を呼びかける。

■活動日／年 6 回発行 ■従事者／職員 2 人、ボランティア数人

⑧人材育成（相談ボランティア養成講座）

■内容／FBの運営にはボランティアが不可欠である。特に「相談支援ボランティア」を育成し配置するために、養成講座、研修を適時実施する。

■活動日／適時 ■従事者／職員 1～2 人、ボランティア

⑨各拠点ごとの事業

〈フードバンクうつのみや〉

■内容／きずなセットの展開…①宇都宮駅東拠点（泉が丘支所）の運営ボランティア、相談支援スタッフ養成を行う。②県内FB拠点の相談支援の普及

■活動日／毎日（火～土曜日） ■従事者／職員 1～2 人、ボランティア十数名

〈フードバンク県北〉

■内容／那須地域で社協等と連携してFB活動を行う。総合相談事業を充実する。

食品配布会の実施（毎月第 2 土曜日）

■活動日／毎日（月～金曜日） ■従事者／ボランティア3～4人

〈フードバンク日光〉

■内容／FBに関わる人が増えてきたので、今期は人材活用と日光での活動展開を模索する。基本的に第1水曜日午後1時から定例会議を開き、基本的なFB活動を週3日行い、試験的に直接困窮者支援を試みる。年間6回程度食品配布会を実施する。

■活動日／週3日程度 ■従事者／ボランティア5名程度

〈フードバンク那須烏山〉

■内容／社会福祉協議会、行政の困窮者窓口と連携して食品支援をする。随時FB活動を行う。

■活動日／随時 ■従事者／ボランティア3人

(2) FBのファンドレイジング（生活困窮者の支援、NPOへの活動資金援助事業）

資金調達とともに、誰でも参加できる社会貢献イベントとして、活動参加を通じたFB活動の普及・理解促進を図る。

①チャリティウォーク県北・県央

■内容／チャリティウォークを県北・県央地域区で実施する。今期からとちぎコミュニティ基金の、県内のFB団体の合同ファンドレイジングイベントとして実施する。（⇒とちぎコミュニティ基金）

■活動時期／6月～10月 ■従事者／職員3人、ボランティア70人

②サンタ de ランへの参加

■内容／今期もサンタ de ランに参加する。（⇒とちぎコミュニティ基金）

■活動時期／11月から12月 ■従事者／職員2人、ボランティア5人

(3)ユニバーサル就労ネットワーク栃木（仮称）の設立・運営（生活困窮者の支援）

■内容／「ユニバーサル就労研究会」を発展させ、「ユニバーサル就労ネットワーク栃木（仮称）」の設立・運営を行う。FBで把握している生活困窮者の出口の一つとして「中間的就労」があるが、従来の障害・若者支援の中間的就労を一層拡大し、働きづらさを抱える誰でもが使える就労支援の中間支援団体を構想した。そのためには、多種多様な求人企業と、4段階のステップアップ（無償通勤者、有償通勤者、中間的就労、パートタイム就労）を図る伴走支援のコーディネーターが必要である。

今期はプレ段階として自力で運営を開始するが、2年後の生活困窮者自立支援事業（就労準備支援）の受託を念頭にして9月をめどに活動を開始する。

現在ユニバーサル就労研究会参加企業は本会の他に、とちぎコープ、ふれあいコープ（社福）、にじみる（独立型社会福祉士事務所）、コラボワーク（労働者協同組合）で毎月1回検討会を開催している。人事体制はまだ未定だが、会員団体からの出向で求人側企業の拡大を図り、本会スタッフが困窮者のアセスメントとマッチングを行う予定である。

■活動日／毎日 ■従事者／職員2人

C. 【とちぎコミュニティ基金】

とちぎコミュニティ基金のブランド化を図るため、今期から、団体名よりも「とちぎコミュニティ基金」の表出を優先する。情報誌、ラジオ、WEB等でのブランドのための広報をする。

また「休眠預金・コロナ枠助成」を受託し、資金分配団体となったことから、NPOを通じた栃木のSDGsの実現のためのハブ機能として事業活動を行っていく。

さらに、とちコミ主催で「とちぎのミライづくり大会」(仮称)を実施し、寄付金の分配と、支援者-助成団体の「三者のつながり」の見える化を行うことで、ブランド化とさらなる資金提供者を掘り起こす活動をする。 ■実施日/随時 ■従事者/職員2人

(1)プロジェクトの運営 (NPOの活動資金の援助事業)

①子どもSUNSUNプロジェクト=子どもの貧困撃退の円卓会議

■内容/地域の課題を解決するプロジェクトとして「子どもの貧困」をテーマに円卓会議を開催し、調査、支援方法、必要量を試算し、その後にファンドレイジングと事業設立、運営支援をおこなう。数年間の継続プロジェクトとして運営する。

今期は宇都宮では子どもSUNSUNプロジェクトとして、「外国ルーツの子どもの貧困」を調査し、必要な支援を明らかにする。(⇒ゆめSDGS助成と連動)

また、那須塩原市でも子どもの貧困撃退円卓会議を実施し、調査とネットワークづくりを行う。(⇒ゆめSDGS助成と連動)

さらに、これまで実施してきた総会・定期円卓会議・サンタdeランを実施するとともに、子ども食堂の立上げ支援や、宇都宮市の「親と子の居場所事業」の運営団体の掘り起こしと運営サポートを行っていく。

(3)冠基金の運営 (NPOの活動資金の援助事業、NPOの育成事業)

個人や団体からのまとまった寄付を助成金として配分する。個人名などの「冠」をつけた助成名称とし、運営事務局をとちぎコミュニティ基金が行う。 ■実施日/毎日 ■従事者/職員2人

①花王・ハートポケット倶楽部(地域助成)

■内容/花王(株)の助成金の事務局として助成事務(公募、審査、助成、広報)を行う。比較的小規模で、活動初期の団体の活動に対し助成する。 ■実施時期/10月~2月

②とちぎゆめ基金助成、ゆめSDGs助成

■内容/NPO法人とちぎ障害者労働自立センターゆめの自販機事業の売上から拠出する助成事務を行う。

A: とちぎゆめ基金助成: 障害者や生きづらさを抱える人の職業自立を図る事業に助成する。

B: ゆめSDGs助成: 3団体以上の合同での申請により「地域の課題」を解決する事業に助成する。3年間の継続事業として、調査助成、事業助成(2年)を行う。伴走支援も実施する。 ■実施時期/10月~2月

③たかはら子ども未来基金

■内容/篤志家からの年間100万円の助成金を活用し、県北地域の子育て支援・子どもの貧困関係のNPOと、学生のNPOでのインターンシップを行うことに助成する。NPOの募集、学生の募集、研修、報告会など通年の事業がある。 ■実施時期/5月、8月~3月

④がんばろう栃木! 台風19号災害募金

■内容/2019年10月の台風19号災害での寄付金を災害救援を行う団体に助成する。2020年4月からは復興支援プログラムとともに栃木県内の防災活動への助成を行う。今後、民間組織などによる住民に寄り添う活動や、特殊専門性を備えた活動が必要である。さらに長期にわたり支援活動を必要である。

(4)合同ファンドレイジング (NPOの活動資金の援助事業、NPOの育成事業)

①サンタdeラン&ウォーク

■内容/子どもSUNSUNプロジェクト(子どもの貧困撃退円卓会議)の寄付イベントとして、毎年12月にサンタdeラン&ウォークを実施する。NPO10数団体とともに実行委員会を組織し、ボランティアスタッフをくわえて、3月から毎月実行委員会を実施し、複数回の事前イベント、各団体のファンドレイジングをそれぞれ行い、寄付者層の拡大と活動の啓発普及の両方を目的に実施する。寄付はとちコミ運営経費25%除いた全

額を加盟NPOに分配する。

■実施日/12月19日(予定) ■従事者/職員4人、ボランティア20人

② **がんばろう栃木! コロナ支え合い募金・「47 コロナ基金」助成**

■内容/2010年6月からコロナで支援が必要なNPO14団体が集まり、合同ファンドレイジングを実施した。初年度は600万円の助成をした。期間である今期末(2022年3月)まで寄付集めと助成を行なう。

また全国の団体とともにやっている「47 コロナ基金」の助成も、このコロナ支え合い基金と連動して行う。

■従事者/職員2人

③ **チャリティー・ウォーク (県北・県央)**

■内容/FB団体の合同ファンドレイジングとしてチャリティーウォークを開催する。昨年同様、足利、真岡、日光、下野、小山のFBにも呼びかけ、集めた寄付の75%を参加団体に指定配分する。開催場所は、県北と宇都宮市周辺とし、FB県北とFBうつのみやが運営の実務を担う。

FB県北や困窮者支援活動の推進を図るため、県北地区でチャリティーウォークを実施する。一般の人がかかわれるチャリティーイベントを通して具体的な「助け合い」に普及を図る。宇都宮チャリティーウォークと同日開催する。

■実施期間/6月~10月 ■従事者/ボランティア20人、職員3人

(5) 休眠預金・コロナ支援助成 (NPOの活動資金の援助事業、NPOの育成事業)

■3月から休眠預金の新型コロナウイルスに対応する助成金の「資金分配団体」になった。とちコミの既存の助成事業に加えて、休眠預金・コロナ助成をおこなうことで「とちコミのブランド化」を図ることを目的とする。NPO法人とちぎユースサポーターズネットワークの協力で事業運営をおこなう。

休眠預金とは10年間取引がない預金口座のうち400億円を引当金として留保した以外の、700億円/年を源資にした助成金で、NPO等の「社会公益活動を行う団体」に交付するものである。

D. 【災害救援、復興支援】

(1) 救援・復興支援事業 (災害救援事業)

■内容/国内(特に東日本)で災害が発生した場合に救援活動を実施する。コロナ感染対策を確立したうえでボランティアによる救援活動や募金活動(後方支援)を行う。

助成金で「プロボノ派遣」枠を利用し、水害後の家の補修や避難所運営支援、災害復旧DIY支援センター、被災直後調査活動、被災地フードバンク活動などを検討する。

■活動日/随時(災害発生時数日から数ヶ月)。 ■従事者/職員2人、ボランティア15人~50人

(2) 復興支援 (災害救援事業)

■内容/被災地内での生業の再建やコミュニティ形成支援のための事業をおこなう。

① まけないぞうプロジェクト

■内容/東日本大震災の被災者とのつながりや、仕事作りとして「まけないぞう」プロジェクトを実施する。震災を忘れないため制作数を少なくしながら活動を継続する。職員とボランティアによる運営とする。

■従事者／職員 1 人、ボランティア 1 人

(3)とちぎVネット災害救援ボランティア基金 (NPOの活動資金の援助事業)

■内容／今期は、2019年に発生した台風19号でのとちコミ「がんばろう栃木！募金」で代替える。主に国内で発生した自然災害などに際し緊急救援ボランティア活動が必要な場合の初動の活動資金を援助（「基金運用規定」による）するとともに、本会の救援活動の費用としても使用する。

■活動日／主に災害時 ■従事者／常任理事会、常勤職員 1 人

E.【NPO活動推進センター】

(1)NPOに関する相談・協働事業 (NPOの育成事業)

■内容／認定NPO法人など“望まれるNPO”をめざす市民活動団体に対し、ファンドレイジング、講座、事業運営の相談をするなど、ともに切磋琢磨するための事業を行う。とちぎコミュニティ基金（休眠預金コロナ枠）の助成や伴走支援機能と連動して実施する。

■実施日／随時 ■従事者／職員 2 人

①NPOに対する備品・機器貸出

■内容／輪転機・紙折り機等の貸出もおこないNPOへの便宜を図る。事務所貸出は申出があった場合に随時対応する。 ■実施日／随時 ■従事者／職員 2 人

■経費／フードバンクうつのみやへの事務所貸出は月毎に徴収し、水道光熱費等の共益費、コピー機、印刷機等の使用料に充てる。印刷機など備品については用紙・インク代の実費負担。

(2)ボランティアの啓発・普及事業 (Vの啓発・普及事業)

①『とちコミSDGs通信』の発行

■内容／『ボランティア情報』の名称を変更し内容も全面改訂する。とちぎコミュニティ基金のブランド化と、今年から産業界でも取り組みはじめた「SDGs」を前面に出す内容とする。ボランティア・職員による取材、執筆を行う。SDGsをテーマにすることで企業関係者の会員増加を図る。

また新聞切り抜き隊による新聞の要約情報を作成しボラ情報紙上に掲載する。配付先は会員、会員以外の県内外の関係機関。

■発行日／奇数月、年間6回発行、A4判、16ページ外側8Pはカラー。切りぬきは毎週水曜日

■従事者／職員 2 人、ボランティア 2 人

②「みんながけっぷちラジオ」の放送

■内容／コミュニティFM「ミヤラジ」で栃木のSDGsや市民活動の啓発・普及を目的に、困窮者のケース、制度の課題、市民活動による助け合いをテーマにしたラジオ番組を毎週放送する。「とちコミ・SDGs通信」やSNSと連動した広報により、とちぎコミュニティ基金のブランド化を図る。

■放送日／毎週火曜日、19時から1時間 ■従事者／職員 2 人、学生アルバイト 3 人

(3)「震災がつなぐ全国ネットワークへ」の加盟・運営 (Vの連絡調整事業)

■内容／災害時の全国的なボランティアネットワークを構築するため「震災がつなぐ全国ネットワーク（略称＝震つな）」へ加盟し、役員・職員を同ネットワークの顧問として業務にあたらせる。

■従事者／職員1人、ボランティア（運営委員）1人

(4)「ボランティア推進団体会議（民ボラ）」の運営（Vの連絡調整事業）

■内容／全国の民間の中間支援団体の「自主研修会」の実行委員会として本会職員を派遣して実施する。本会役職員の必須の研修会を位置づける。 ■従事者／職員1人、ボランティア（運営委員）1人

F.【とちぎ県北ボランティアネットワーク】

とちぎボランティアネットワークのミッションを実現するため、県北にも拠点を設置し、より身近に人や団体が集まり活動できるようにする。また、SOSが出しやすい「助け合いの県北づくり」を具体的にすすめるため困窮者支援を中心に活動を展開する。

(1)生活困窮者の支援（生活困窮者の支援）

①フードバンク県北

■内容／大田原市の新事務所（住吉町）を活用して県北地域のFB活動の日常化、発展をはかる。「フードバンク県北」と名称変更し、特に那須塩原市への支援対象者と食品提供者を増やしていく。ケース記録・検討会の実施により、事務所スタッフの力量向上と個別ケースの伴走支援能力の強化を図る。

・「FB食品配布会」を毎月1回（第2土曜）に実施する。

■活動日／毎日 ■従事者／ボランティア10人、職員1人

②チャリティー・ウォーク県北（⇒とちぎコミュニティ基金）

■内容／FB県北や困窮者支援活動の推進を図るため、県北地区でチャリティーウォークを実施する。一般の人がかかわれるチャリティーイベントを通して具体的な「助け合い」に普及を図る。チャリティーウォーク宇都宮と同日開催する。

■実施期間／6月～10月 ■従事者／ボランティア10人、職員1人

(2)スマイルハウス・ボランティア会（生活困窮者の支援、ボランティアの啓発・普及事業）

■県北事務所での子ども食堂（子どもサロン）、学習支援（学習ルーム）、地域交流（地域サロン）、困窮母子家庭支援（ママカフェ）の運営をする事務所専属のボランティア会。

毎日日替わりでプログラムを実施するとともに、貸館業務による3B体操、華道サークルなどを行う。運営を円滑にするボランティアの確保に力を入れる。

■活動日／毎日 ■従事者／ボランティア10人

(3)県北での会員活動の促進（ボランティアの啓発・普及事業）

県北在住の会員の自発的な活動や新しいチャレンジをサポートする。また、情報誌の取材や会員同士の情

【その他の事業】

今年実施しない。(出版・編集事業、書籍販売事業、物品販売事業)

4. 財政・組織運営

(1) 財政運営

会費、寄付、事業収入のうち、会費が低迷している。「とちコミSDGs通信」の購読を企業向けにすすめて会員獲得を図る。またプラットフォームとして共同団体（FBうつのみや）の会員の獲得も連携して行う。休眠預金の広報を通じてとちコミのブランド化を図り、ファンレイジングイベント等での寄付者の巻き込みを図る。休眠預金とともにファンレイジングに注力する。

また、プラットフォーム分担金による共通事業費・共通人件費の確保を図る。

① 会員

- ・『とちコミSDGs通信』を通じた企業関係者への会員勧誘を図る。
- ・**フードバンクうつのみや関係者への会員勧誘**…「FB通信」に本会の会報を同封し活動理解と本会会員への「ダブル会員」の勧誘をする。

② 寄付

- ・**とちぎコミュニティ基金**…従来からの寄付イベント「サンタでdeラン&ウォーク」の他に、クラウドファンディング、子どもSUNSUNメイト(マンスリー寄付)、寄付つき商品の開発、子どもSUNSUNプロジェクトの発起人寄付などの多様なファンレイジングを行う。
- ・**チャリティウォーク(県北、県央)** FBの宣伝と寄付集めを行う。今年度は目標金額を300万円とし、新規の支援者を募る。
- ・**2021年度・とちぎVネット年末冬募金**…12/1～1月末に実施する。

③ 事業

- ・ユニバーサル就労支援ネットワークの予算はほぼ自己資金である。多くは人件費であり企業出向者に活動してもらおう。運営費経費は前期のFB寄付から100万円捻出する。
- ・とちコミの運営を通じた事業費(20～25%)の獲得と、プラットフォーム分担金、会費、委託事業を、人件費の主な財源とする。本会が直接事業を運営する部分もあるが、中長期的には「とちコミ運営費」と「プラットフォーム化による分担金」を本会人件費の柱にしていく。

(2) 組織運営

総会の他に事業創出会議(来年どうするか会議:11月)、予算会議(ボランティアの出番ですよ会議:2月)を行う。ボランティアの育成とボランティアによる統治を社内文化として定着させる。また、夏・冬のボランティア飲み会は「仲間づくりによる活動活性化」を図る。サンクスVクラブも会員や昔の活動家、ゲ

スト（他団体）との交流を行い、新規巻き込みととちコミやFB等による寄付獲得の機会と位置付ける。若者会議（1月頃）は全体の中で埋没しがちな若者に焦点をあてて、若者自身の育ち（研修）・交流・新人獲得を目的にした集会を実施する。

① 会員総会

「会員が集まる会」と位置付け、正会員の他の賛助会員にも参加を呼びかける。「予算や事業の審議は総会の一部」とし、会員同士の交流会を開催する。（徳山が主担当）

② 理事会（役員会）

定期の理事会を年3回程度行う。常任理事会は随時召集する。また、年度末に事務局職員業務インタビューを実施する。理事同士・運営委員・職員のコミュニケーションを活発にする。

③ 運営委員会

「運営委員会」を県北・本部でそれぞれ毎月開催する。本部の運営委員は事実上いないので運営委員会の代行として月1回の職員会議（第2火曜）が代行している。月ごとの事業の報告、調整、意思決定を行う。ボラ情報・ラジオの編集会議も行う。

④ 職員会議

職員が増加し拠点が増えたので、月2回（第2・4火曜10時～）職員会議を開催する。このうち第2火曜日は運営委員会とし、月ごとの事業・課題について意思決定を行う。

⑤ 来年どうするか会議（事業創出会議）

Vネットの運営に携わっている人達を集め、来年の事業をどうするかアイデア出しの会議を実施する。（11月実施）

⑥ ボランティアの出番ですよ会議（予算会議）

Vネットの運営スタッフとボランティアを集めどのようにかかわってもらいたいのか、どのようにかかわれるのかを話し合う会議を実施する。（2月実施）

⑦ 委員会・チームの会議

●**新聞切り抜き隊**…毎週火曜日14時から活動を行う。各自新聞の切り抜きを持ち寄り、ファイリング、要約、パソコンへ入力を行う。情報の収集・提供のためのボランティアチーム。

●**Vレンジャー会議**…子どもの貧困を救う若者チーム。 月1～2回実施

●**若者会議**…学生や若手社会人ボランティアが参加する会議。年2～3回実施

●**フードバンク会議**…FBうつつのみや：埴田事務所 毎週木曜日14時～

⑧ 懇親会

※社会情勢を鑑みて開催の判断を行う。

●**サマーパーティー（暑気払い）**…梅雨明けの熱くなる時期に職員、ボランティア、誰でも参加することができる懇親会。8/7（会費500円+1品）

●**忘年会**…年末（仕事納めの日）に職員、ボランティア、誰でも参加することができる懇親会。12/28（会費500円+1品）

●**サックスVクラブ**…年間2万円以上の寄付者と関心のある若者を対象に春と秋の2回実施する。（主担当：小澤、宮坂、伊東） 8/7、3/27（会費500円+1品）